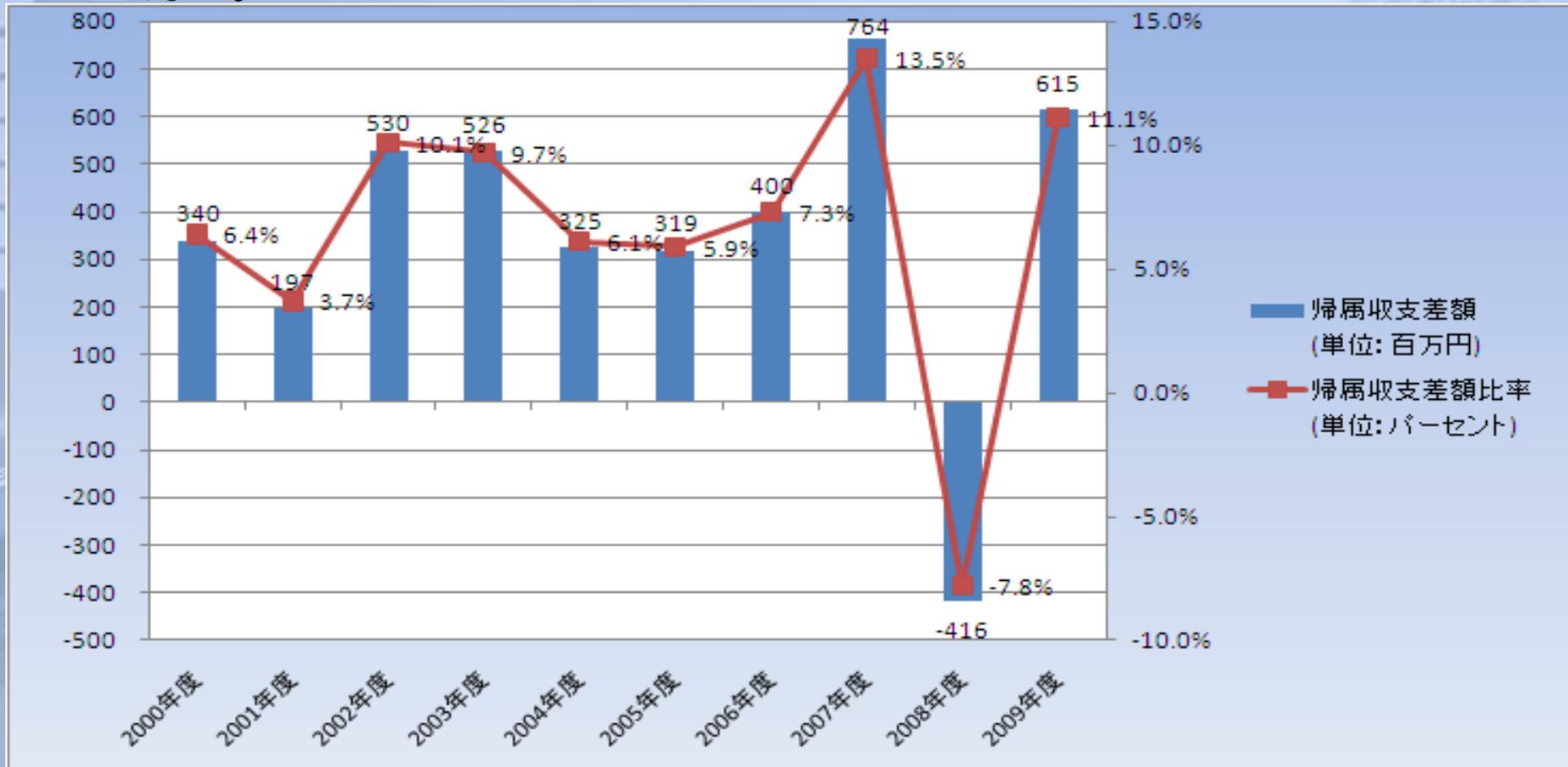


# 帰属収支差額について

- ① 帰属収支差額(帰属収入マイナス消費収入)については、唯一2008年度のみマイナス4億16百万円のみで、これ以外の年度は全てプラスで非常に健全である。
- ② 2008年度のみ収支差額がマイナスに転じたのは、当該年度において「退職給与引当金繰入」を50%から100%に変更、積み増した経緯があるにすぎず、懸念する必要は全くない。



# 基本金組み入れについて ①

- ① 基本金について、過去10年間を分析する限りでは、**「第2号基本金」**の組み入れ率は**どの年度も全くのゼロ**である。その理由(背景)だが、“学校法人会計基準第30条第2項(※注1)”の規定に則っているからである。つまり、当該基準では、**明確かつ具体的な建物新設(改修)の計画**(※注2)でないと、2号基本金として組み入れることは出来ないという規定がなされている。

## ※注1) 学校法人会計基準 第30条第2項(※一部抜粋)の趣旨・内容について

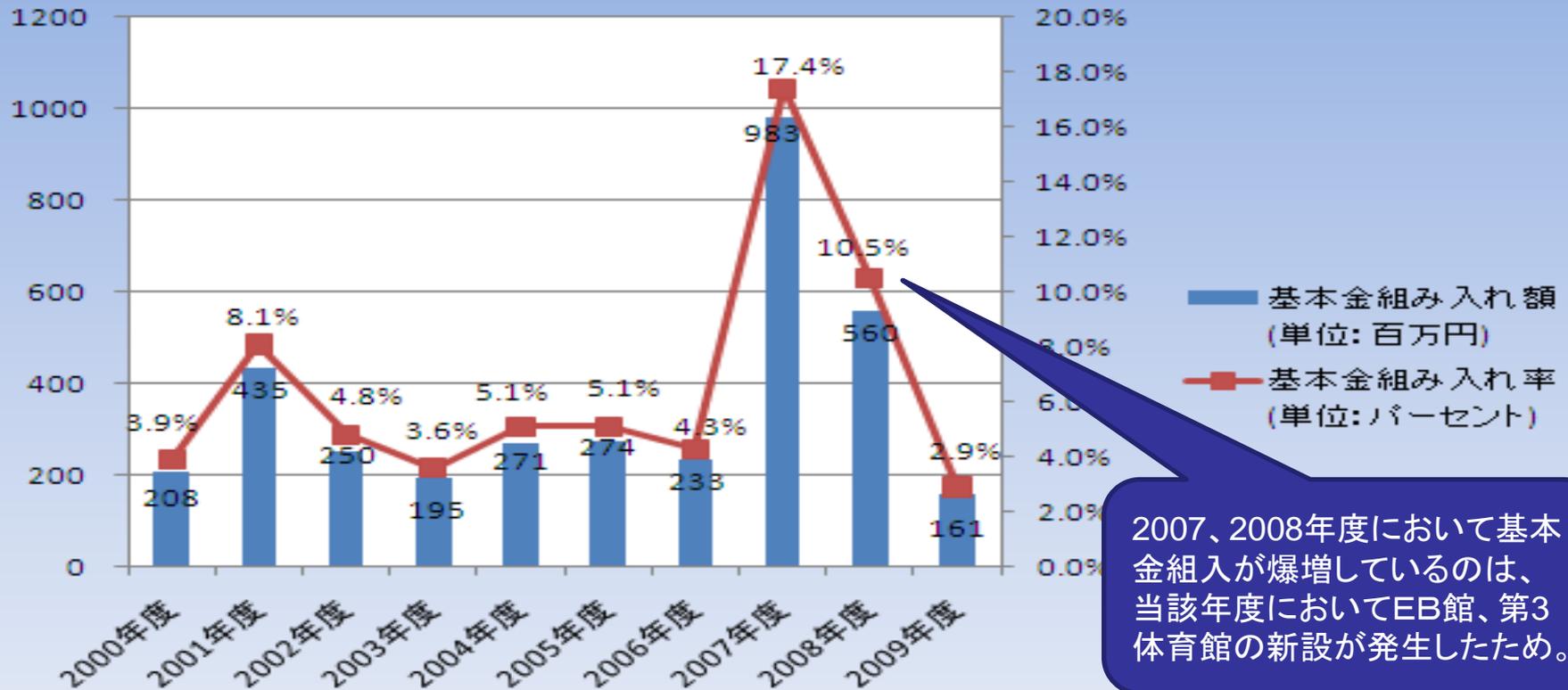
『前項第2号または第3号に規定する基本金への組入れは、固定資産の取得又は基金の設定に係る基本金組み入れ計画に従い行うものとする。』詳細は下記URL、日本公認会計士協会による「基本金に係る実務上の取扱いに関するQ&A(平成21年9月1日最終改正)」を参照

[http://www.hp.jicpa.or.jp/specialized\\_field/pdf/2-12-15-2-20091001.pdf](http://www.hp.jicpa.or.jp/specialized_field/pdf/2-12-15-2-20091001.pdf)

※注2)ここでいう“明確かつ具体的な建物新設(改修)計画”というのは、『将来●年後に●●という建物が老朽化し、当該建物の代わりに新しく地下●階建て・地上●階建ての●●という建物新設のために●●億円が必要であるから、今から毎年●●円ずつ第2号基本金として計画的に組み入れる必要がある』というくらいの、**具体的かつ明確な計画**が必須ということである。

# 基本金組み入れについて ②

- ② 基本金組入率(基本金／帰属収入)は、2007年度の17.4%、2008年度の10.5%を除き、それ以外の年度は全て1桁であり、全国平均である11.7%(同規模平均は9.5%)と比較しても相対的に低いのが現状である。
- ③ 基本金組入率は、一般的に高い方が望ましいとされ、一見、前②項の状況を見ると財政的にマイナス評価ととられかねないが、実はそうではない。基本金は第1号基本金がその大部分を占めるわけであるが、本学の場合、建物を新設・改修した場合において、全額を第1号基本金として組み入れられるわけではなく、「修繕費」として会計処理がなされているからである。



# 財務分析総評 【結論】 ①

過去10年間を見る限りにおいて、帰属収入は非常に安定している。

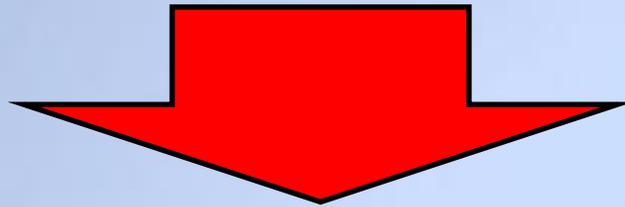
帰属収支差額においても、退職給与引当金100%組入が背景にあった、特例の2008年度を除き、過去10年間全ての年度においてプラスである。

よって、学院(理事)が日々強行的に訴え働き掛けしている、次スライドからの3点については何の根拠・説得力もないことと結論付けられる。

# 財務分析総評 【結論】 ②

## 理事コメント その①

人件費が高いから、さらなる抑制が必要である。



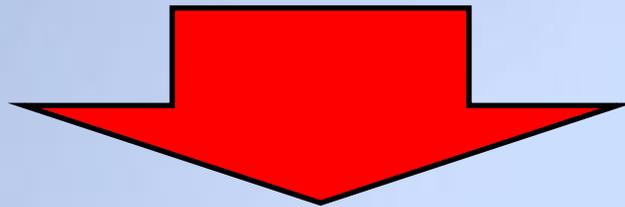
## 組合からの反論 その①

人件費比率は全国平均および同規模平均の“人件費比率”（全国50.0%、同規模52.1%）と比べても決して高くない。

# 財務分析総評 【結論】 ③

## 理事コメント その②

将来の建物老朽化に伴う建替費が必須であるから、今のうちからお金をため込む必要がある。



## 組合からの反論 その②

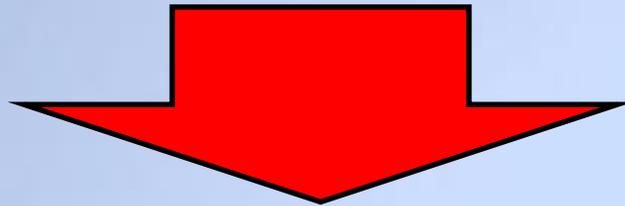
第2号基本金の組み入れがゼロであり、かつ将来キャンパス整備計画について組合員に全く説明がない白紙かつ無計画の状況。

ちなみに、同志社女子、京都女子、武庫川女子は、いずれも第2号基本金については、計画的に組み入れている。

# 財務分析総評 【結論】 ④

## 理事コメント その③

繰越支出超過（消費収支差額）が6億21百万円(マイナス)となっており、解消に向けて努力する必要がある。



## 組合からの反論 その③

2008年度退職給与引当金100%積み増しや、2007年度・2008年度の第3体育館、EB館の新設による第1号基本金アップによることが背景である。  
2009年度事業報告書(34頁)に記載があるように、さも“累積赤字”であるかのごとく説明されているのは全くの誤解である。

ご清聴有難う  
ございました。